

## 雑誌『ウタリ乃光リ』及びチン青年団団則

## —2018（平成30）年度新収蔵資料の紹介 2—

小川正人

- 目次 1 はじめに —資料の特徴と意義—  
 2 『ウタリ乃光リ』総目次  
 3 『チン青年団団則』

Key Words

アイヌ史 (History of the Ainu)、アイヌの言論 (Speech activities of the Ainu)、  
 青年団 (Youth association)、むかわ町 (Mukawa Town)、辺泥和郎 (PETE Waro)

## 1 はじめに —資料の特徴と意義—

本稿では、北海道博物館が2018年度に新たに受け入れた資料のうち、2019（平成31）年1月に登録を終えた標記の資料について、その概要と特徴を紹介し、雑誌『ウタリ乃光リ』については、今後の利用の便を考えその総目次を、「チン青年団団則」については全文を掲載する。

『ウタリ乃光リ』については、谷川健一（編）『近代民衆の記録 5 アイヌ』（新人物往来社、1972年）が創刊号及び第8、15号の一部を活字化して紹介し、同書をもとに編さんした小川正人・山田伸一（編）『アイヌ民族 近代の記録』（草風館、1998年）では創刊号及び第3、4、6、7、8、12、15号の一部を活字化し、上記の各号及び第9、10、11号については目次を掲載しているが、残余の号はこれまで紹介されていないことから、今回あらためて15号までの全号の目次を掲載することとした。『チン青年団団則』は、管見の限りではあるが本稿が初紹介である。

## (1) チン青年団と辺泥和郎

チンは、現在の北海道むかわ町汐見の一部にあたる地域で、鶴川河口の南東側に位置する。1934年3月刊行の『北海道旧土人保護沿革史』（喜多章明著、北海道庁発行）が掲載する「部落別戸口表」（同書328～339ページ）によれば、鶴川村の「珍」の戸口数は36戸164名である。

『ウタリ乃光リ』創刊号（1932年8月発行）によれば、同青年団はそれまで井目戸青年団に属していたチンのア

むかわ町汐見付近図



むかわ（チン）の位置概要図

イヌ青年たちが中心になって同年同月に発足したとのことであり、創立時の団長に辺泥和郎、副団長には尾崎常雄が就任した。辺泥和郎には「弁論」「文学」の肩書きも付いており、「巻頭辞」でも筆頭に辺泥の名が、以下に「同人」として尾崎や新井田善吉ら5名の名が並ぶ、というかたちになっており、チン青年団の発足、少なくともこの「団誌」の企画・編集では辺泥和郎が中心になっていたことをうかがわせる。

辺泥和郎は、1927年に婿養子として父・辺泥五郎の子となった。辺泥五郎は、1878年、釧路の春採に生まれ、1897年に札幌でキリスト教（聖公会）伝道者ジョン・バチラーから洗礼を受けて自身も伝道者となり、1906年から伝道のためチンで暮らした。チンでの五郎は、キリスト教伝道ばかりでなく地域のさまざまな役割も担っていたようであり<sup>(1)</sup>、和郎が青年団長に就いた背景には、このような五郎の立ち位置も影響していたと考えられる。

和郎もキリスト教伝道者の資格を有し、また1937年

小川正人：北海道博物館アイヌ民族文化研究センター長

(1) ここでの辺泥五郎と和郎の足跡に関する記述は、近森聖美（2009）による。

から41年までは村議もつとめ、1946年には第22回衆議院議員総選挙（戦後第1回の総選挙）に立候補（落選）している。



辺泥和郎の総選挙ポスター  
（当館総合展示：原資料所蔵 大阪人権博物館）

## （2）『ウタリ乃光り』について

『ウタリ乃光り』創刊号と第2号は、表紙に「団報」の文字を大きく掲げ、創刊号の「巻頭辞」や第5号までの奥付には「主幹 辺泥和郎」の他に「同人」の名があり、チン青年団の団報である旨を打ち出している。第6号からは奥付のこれらの氏名の記載が消え、青年団との関わりを示す記載は「発行 チン青年団文学部」のみとなる。更に第14号は「発行」も「ウタリ乃友社」となり、そこから3ヶ月後に発行された第15号（第14号までは、ほぼ月1回のペースで発行されていた）は、巻頭の「更生「ウタリ乃光り」誌御挨拶にかえて」において「今号より辺泥汀舟個人誌とし」と述べ、辺泥和郎の個人誌とする旨を明確にした。こうした経緯からは、同誌は当初から編集において辺泥和郎が主導的な立場にいた（無署名文も多くは彼によるものが多いと推測する）が、のち次第にその性格を強めていったと推察できる。

なおチン青年団の団長は1935年1月から尾崎常男がつとめている<sup>(2)</sup>。

同誌はこのような経過をたどるものの、特に初期の号には辺泥以外の者の文章も決して少なくはなく、特に初期は様々な筆者の名を見ることができる。陸上競技や弁論大会の記録など、青年団の活動の記録として重要な情報も掲載されている。

アイヌが主たる団員となった青年団は他にもある（例えば平取の二風谷青年団）が、管見の限り、その団誌の類が公的な資料保存利用機関に残されているのは本誌の

みである。またアイヌが投稿の中心となった雑誌としても、いまその存在が確認できるのは他に『ウタリグス』『ウタリ之友』など、ごく僅かであり、こうした点で本誌の近代史の記録としての意義は大きいと言える。

今回紹介した全15号は全て謄写印刷、B5判、ホチキス綴じである。本文の体裁は15号を除いておおむね縦二段組み、15号のみ一段組みである。なお前掲『近代民衆の記録 5 アイヌ』の解題では、同誌はこの第15号をもって「終刊となった」と記しており、このことを裏付ける記録は確認できていないものの、16号以降は未見である。

これまで、公共の資料保存利用機関において同誌を所蔵しているのは北海道立図書館北方資料室が6～12号および15号（ただし九頁以後欠）の原資料を、この複写を北海道大学附属図書館（北方資料室）などが所蔵しているのみであった。

このたび、当館で本資料を受け入れるにあたり、今後の利用の便宜を図るため、全冊のカラーデジタルスキャンを行い、2019年4月を目途に、その画像データを当館のほか北海道立図書館におく予定である。

## （3）凡例

本稿の「2」「3」の凡例は次のとおりである、

- ・本資料は一部を除き縦書きであるが、本稿では横書きに改めた。その際、号数・日付等の漢数字は全て算用数字に改めた。
- ・論考のタイトル及び著者名は本文の記載に従った。ただし、明らかな誤記等と考えられる場合や目次との大きな齟齬が見られる場合等は適宜説明を補う等の措置をとった。判読できなかった文字は□で表した。
- ・タイトル等に改行がある場合は、「／」で区切って表した。
- ・コーナータイトルと判断したものは「[ ]」で括弧で示した。
- ・「{ }」内は小川による注記・補足である。

## （4）謝辞

本資料ならびに辺泥和郎氏について筆者に最初に具体的な教示をいただいた近森聖美氏、『アイヌ民族 近代の記録』編さんの機会を与えてくれた故・内川千裕氏ならびにその契機を作ってくくださった石原誠氏に、この場を借りて、改めて深く感謝申し上げる。

(2) チン青年団及び汐見の歴史については、『ウタリ乃光り』のほか汐見二区沿革史編集委員会編（1987）を参照した。

2 『ウタリ乃光リ』総目次

■創刊号

1932（昭和7）年8月30日 発行  
発行 チン青年団

〔表紙〕〔団報／ウタリ乃ヒカリ／創刊号〕



〔表紙裏 白紙〕

- 〔p.1〕 巻頭辞
  - 〔p.5〕 チン青年団名簿
  - 〔p.6〕 心
  - 〔p.7〕 発団式
  - 〔p.9〕 初団式所感 尾崎常男
  - 〔p.12〕 初団式所感 新井田善吉
  - 〔p.16〕 温故知新 辺泥岩雄
  - 〔p.17〕 小サナ彼の祈り 新井田正雄
  - 〔p.19〕 団長就任の所感 辺泥和郎
  - 〔p.21〕 白紙
- 〔後表紙〕 御製〔浅みどり／すみわたりたる大空乃／ひろきをお乃が／心ともがな〕
- 〔奥付〕

■第2号 1932（昭和7）年9月20日印刷  
9月22日発行

編輯兼発行人 鷓川村チン 辺泥和郎  
発行所 鷓川村チン チン青年団  
印刷所 チン青年団 文学部

〔表紙〕〔団報／ウタリ乃光リ／第貳号／鷓川 チン青年団〕



- 〔表2〕 第二号 目録
- 巻頭辞 汀舟生
- 〔p.1〕 我等乃『シルシ』に付て ワロー・ペテ生
- p.3 インテレストブックから。
- p.5 水の五則
- 昔を偲ぶ（物価を通して） 汀舟生
- p.6 アイヌは何処に居たか／ジヨンバチエラー先生御話の一節
- p.7 追分節によるアイヌの考察（一）  
汀舟生
- p.10 [論説]昭和維新 八谷治三郎
- p.11 我等果して滅び行く民族なりや  
辺泥岩雄
- p.12 克己忍耐 三上菊造
- p.13 人生（邦枝完二）  
人の運（乃木大将）
- p.14 [詩]淋しき放浪者 ジザプロ、ハチヤ
- [詩]手をかける愛児 水谷まさる
- p.15 [短文]月乃夜 マサオ生
- 光風霽月 高橋是清閣下
- 名士乃座右銘
- p.16 穴だ。穴だ。 小石川次郎生
- p.17 旅でヒロツタ／見るに見かねた／一つの事実  
編輯部より
- p.18 [挿絵]「一筆かき乃スポーツ」  
〔奥付ほか〕

■第3号 1932（昭和7）年11月6日印刷  
7日発行  
編輯兼発行人 鷓川村チンコタン 辺泥和郎  
発行所 鷓川村チン チン青年団  
印刷所 チン青年団文学部  
印刷者 辺泥岩雄

■第4号  
1932年11月26日印刷納本  
12月5日発行  
編輯兼発行人 鷓川村字チン 辺泥和郎  
発行所 鷓川村字チン チン青年団文学部  
印刷所 同上

〔表紙〕 ウタリ乃光リ／第参号／鷓川／チン青年団



〔表紙裏〕 第三号目次

	卷頭辞	汀舟生
p.1	数字に見る／我等ウタリー	汀舟生
p.6	青年十訓 農家十訓	
p.7	インテレストブックから〔一、タッター言／二、母の愛／三、豆腐（トーフ）／四、勝利は苦戦の後に〕	
p.9	追分節によるアイヌの考察（二）	汀舟生
p.13	植木乃話／向井山雄先生御話の概要	
p.14	我等乃南部選手に接して	新井田正雄
p.15	見た事、聞いた事、思つた事やら考へた事	ワロー・ペテ生
p.16	信仰の力	
p.17	編集部から	
〔p.18〕	今は亡き畏友／遼星北斗（遼星滝次郎）兄は／ウタリーののために／強く、高らかに、叫び、歌つた〔短歌3編掲載〕	
		〔奥付ほか〕

〔表紙〕 ウタリ乃光リ／第四号／鷓川／チン青年団



〔表紙裏〕 第四号 目次

	卷頭言	汀舟生
p.1	再び我等乃“シルシ”について	
p.4	（承前）数字に見る我等ウタリー	汀舟生
p.9	インテレストブックから 改むるに憚る勿れ 道	
p.10	格言集	
p.11	神話／“スサム”乃話	汀舟生
p.13	農村の振興と産業組合	汀舟生
	〔ページ番号なし〕 産業組合青年連盟に就て	
p.15	報告 編集部から	
〔p.16〕	〔奥付ほか〕	

■第5号

1932年12月23日印刷納本

1933年 1月5日発行

編輯兼発行人 鷓川村字チン 辺泥和郎

印刷所 同上 ウタリ乃光り社

発行所 同上 チン青年団文学部

〔表紙〕〔「ウタリ乃光り／第五号／第二年／新年号／チン青年団」など記載あり〕



〔表紙裏〕新年号 目次

年頭辞に更えて／法学博士 下村海南先生乃言を聞く

〔p.1-2〕〔横書き、ページ番号なし。「我等乃ニシバ 神学博士ジョンパチェラー先生より／ウタリ乃光り誌のために御親切な御便りを頂きました」とあり、以下にローマ字書きにルビを付けた文章を掲げる〕

p.3 (三) 数字に見る／アイヌウタリー 汀舟生

p.6 インテレストブックから

p.7 〔教壇〕

共存共栄 鷓川駅長 納谷恒雄  
仁愛 チン青年団顧問、日本聖公会チン伝道地会衆 辺泥五郎

年頭乃感 チン青年団長 辺泥和郎  
チン青年団へ ジョン・パチェラー

p.12 一月行事 チン青年団

p.13 〔誌壇〕〔栄冠乃旭陽、晩秋乃雨〕

日高国新冠郡元神部女子青年団さかえ くずの年頭に苦言を呈す 辺泥汀舟

p.15 〔史壇〕我等乃郷土と我等乃歴史 汀舟生

p.17 一月乃祝祭日の解

編集部から

〔p.18〕〔奥付ほか〕

■第6号

1933年1月23日印刷納本

同年2月5日発行

編輯兼発行人 鷓川村字チン 辺泥和郎

印刷所 同上 ウタリ乃光社

発行所 同上 チン青年団文学部

〔表紙〕ウタリ乃光り／第六号／第二年二月号

〔古地図の写を記載し、「右元禄十三年庚辰春依台命所呈上之地図也／（此図は天明元年撰松前志に載するものなり／元禄十三年／松前藩作製図）」と記載〕



〔表紙裏〕第六号 目次

卷頭辞 汀舟生

p.1 我等乃よろこび 汀舟生

p.3 〔教壇〕ウタリ乃光り誌会員に贈る

市場岩涛生

p.6 チン青年団員へ 鷓川村連合青年団長

鷓川村長 住谷尚平

p.8 インテレストブックから

秘訣 ナポレオン

動機の純潔 ガンヂー

終局の勝利 東郷元帥

ならぬもの集

格言

桂太郎公乃訓戒

分り集

酒の味知るか？知らぬか？

二月の歴史（一部）

p.10 日高平取村字二風谷村に於て北見美幌のウタリー萱野氏と語る 新井田善吉

p.11 〔学壇〕数字に見る我等ウタリー（四）

汀舟生

p.15 〔史壇〕我等乃郷土と我等乃歴史（二）

汀舟生

p.17 二月祝祭日の解

西郷南洲の小伝

編集部から

〔p.18〕〔奥付ほか〕

■第7号

1933年2月28日印刷納本

1933年3月5日発行

編輯兼発行人 鶴川村チン 辺泥和郎  
印刷所 同上 ウタリ乃光リ社  
発行所 同上 チン青年団文学部

〔表紙〕 ウタリ乃光リ／第七号／（第二年三月号）  
〔古地図の写を記載し、「正徳二年／和漢三才図  
絵掲載ノモノ／学術的参考ノ為ニ表紙トナス  
／一九三三、二、廿五、／汀舟写ス」と記載〕



〔表紙裏〕 ウタリ乃光リ第七号／目次

	巻頭言	汀舟生
p.1	向上へ。向上へ。	主幹 汀舟生
p.3	〔学壇〕 数字に見る我等ウタリー（五）	汀舟生
	附録 アイヌ教育先覚者／日高国平取村／平 村ペンリウク氏 アイヌ教育者（教員） （昭和五年十月調査）／職業別の一部 昭和五年七月現在／給与地状況 土人共有財産（現金ノミ）／（昭和五 年調査） 昨年末町村会議員	
p.5	感謝 札幌に使用して	チン青年団顧問 辺泥五郎
p.10	報告 札幌に行つて来て	辺泥和郎
p.11	インテレストブックから 偉人乃言葉／米国の金言／奴隷から総理大臣 ／犠牲／一日一悪と云ふ事／運？努力？／乃 木大将の教へ	
p.14	三月乃歴史	
p.15	〔史壇〕 我等乃郷土と我等乃歴史（三）	汀舟生
〔p.17〕	珍青年団女子部の設立と其の趣旨	
〔p.18〕	編集部から 〔奥付ほか〕	

■第8号

1933年3月26日印刷納本

1933年4月5日発行

編輯兼発行人 鶴川村チン 辺泥和郎  
印刷所 同上 ウタリ乃光リ社  
発行所 同上 チン青年団文学部

〔表紙〕 ウタリ乃光リ／第八号／国体精神／発揚号（上  
巻）／第二年四月号



〔表紙裏〕 第八号目次

	巻頭言	汀舟
p.1	自力更生に付て	汀舟
p.3	御願ヒ書 御前水公認並ビニ聖処設置方御願ヒ 〔願総代 井戸所有者 新井田パシユイテカン、 鶴川村会議員 区長 新井田シユサンクル ほか計5名〕 副願書 チン青年団長 辺泥和郎	
p.9	“我等乃誇り” 御前水聖処設置	
p.14	〔史壇〕 我等乃郷土と我等乃歴史（四）	汀舟生
p.16	四月乃重要歴史 〔ページ番号なし：別丁か〕 感謝〔「小さき我等の働き に左記諸氏より絶大の御支援を賜りました」と して4名の名と金額を挙げる〕 ウタリ乃光リの使命	
p.17	報告 編集部から	
〔p.18〕	〔奥付ほか〕	

■第9号

1933年5月25日印刷納本

〃 年5月 日発行

編輯兼発行人 鷗川村チン 辺泥和郎  
印刷所 同上 ウタリ乃光リ社  
発行所 同上 チン青年団文学部

〔表紙〕 ウタリ乃光リ／第九号／第二年五月号／建国精神／発揚号／（下巻）



〔表紙裏〕 第九号 目次

	建国の精神	中村孝也先生
p.1	鷗川連合青年団主催弁論大会	
	建国乃精神に還れ	チン青年 辺泥汀舟
	農村青年乃覚悟	チン青年 尾崎常夫
	ベンロンカイノ日〔弁論大会の参加者数（「拾八名」）紹介など〕	
p.15	〔寄稿〕 偶感	室蘭市 市場岩涛
p.17	バチラーニシパを迎へて。	
〔p.18〕	編集部から	
	〔奥付ほか〕	

■第10号

1933年6月9日印刷納本

全 6月20日発行

発行兼編輯人 鷗川村チン 辺泥和郎  
印刷所 同上 ウタリ乃光リ社  
発行所 同上 チン青年団文学部

〔表紙〕 ウタリ乃光リ／第拾号／六月号／チン青年団



〔表紙裏〕 第十号（六月）目次

	卷頭乃言	主幹
p.1	信仰に付いて	汀舟
p.7	インテレストブック	
	泥棒を歓迎する牧師	
	精神一たび到らば	
	偉人の名言	
	常識統計	
	勤労を第一とせよ	
p.10	六月乃歴史	
p.12	〔史壇〕 我等乃郷土と我等乃歴史	汀舟生
p.17	編集部から。	
〔p.18〕	奥付ほか	

■第11号

1933年7月23日印刷納本

同 7月30日発行

発行兼編輯人 鷓川村チン 辺泥和郎  
印刷所 同 ウタリ乃光リ社  
発行所 同 チン青年団文学部

〔表紙〕 第二年 七月号／第拾壹号／  
ウタリ乃光リ／大会記念号／チン青年団



〔表紙裏〕 七月号 目次

巻頭言／団結の力

〔ページ番号なし。別丁か〕 チン青年団応援団歌

辺泥汀舟作詞

- p.1 大会をかえりみて 団長 辺泥和郎
- p.6 我等よろこび乃かずかず 〔珍青年団団長  
辺泥和郎あて表彰状、鷓川村齊藤様あて表彰状  
を紹介〕
- p.8 萌別珍対抗の戦蹟、其他 運動部長 新井田善吉
- p.9 連合大会戦蹟 其他 運動部幹事長 八谷治三郎
- p.14 胆振女子連合青年団第一回東部大会に出席して  
珍女子青年団 三上ヤナ  
笹村豊子  
山戸ツル
- p.17 出征軍人を迎ふ
- 〔p.18〕 編集部より  
〔奥付〕

■第12号

1933年8月11日 印刷納本

同 8月20日 発行

発行兼編輯人 鷓川村チン 辺泥和郎  
印刷所 同 ウタリ乃光リ社  
発行所 同 チン青年団文学部

〔表紙〕 ウタリ乃光リ／第二年 八月号／  
第拾二号／鷓川村チン／チン青年団



〔表紙裏〕 八月号 目次

巻頭言 汀舟生

- p.1 感謝〔釧路国川上郡塘路郵便局長望月波兎一か  
らの便りを紹介〕
- p.3 一ヶ年の回顧 チン青年団長／ウタリ乃光  
リ主幹 辺泥和郎
- p.5 〔学壇〕 民族生物学上より見たるアイヌ民族の  
運命（一）〔金沢医科大学教授・古屋芳雄の論  
文の一部を転載〕
- p.10 〔伝説〕 赤いスズラン 日高新冠元神部女  
青 サカエ クヅノ
- p.12 〔玉什〕（室蘭より）ウタリ向上を祈りて  
香松、岩涛、はつよ〔短歌7首、俳句1句〕
- p.13 知里真志保君と語る（平取ニテ）汀舟生
- p.15 〔史壇〕 我等乃歴史と郷土（承前）汀舟生
- p.16 〔暑中見舞い広告四件：ウタリ乃光社一同／辺  
泥五郎／辺泥和郎／チン青年団・チン女子青年  
団〕
- p.17 編輯便り
- 〔p.18〕 八月乃重要な歴史  
〔奥付〕

■第13号

1933年9月20日 印刷納本

全 9月30日 発行

発行兼編輯人 勇払郡鷓川村チン 辺泥和郎  
印刷所 同 ウタリ乃光リ社  
発行所 同 チン青年団文学部

〔表紙〕 ウタリ乃光リ／第二年／第十三号／九月号



〔表紙裏〕 九月号 目次

- 巻頭言 汀舟生
- p.1 連合青年団主催／村内産業視察団チン団長 辺泥和郎
- p.6 〔伝説〕 赤いスズラン (二)  
日高、元神部、女、青 クヅノ・サカエ
- p.7 警句集
- 〔B4判折り畳み：別丁か〕 鷓川連合青年団 村内産業視察／チン青年団状況一般案内 (創立、昭和七、八、二五)
- p.8 あわたゞかりし／一ヶ月よ
- p.9 〔学壇〕 民族生物学上より見たるアイヌ民族の運命 (二) 金沢医大 古屋博士
- p.13 〔史壇〕 我等乃歴史と郷土 (承前) 汀舟生
- 〔p.16〕 編輯だより  
〔奥付〕

■第14号

1933年10月25日 印刷納本

// 10月31日 発行

発行兼編輯人 勇払郡ム川村チン 辺泥和郎  
印刷所 同 ウタリ乃光リ社  
発行所 同 ウタリ乃光リ社

〔表紙〕 ウタリ乃光リ／第二年／十月号／第十四号／ウタリ乃光リ社発行

〔「シラヌカ／望月様」とペン書きの書き込みあり〕



〔表紙裏〕 十月号目次

- 巻頭言
- p.1 天を對手と為せ 汀舟生
- p.6 〔学壇〕 民族生物学上より見たる／アイヌ民族の運命 (承前) 金沢医大 古屋博士
- p.10 ニシバを迎えて 辺泥五郎
- p.13 金肥乃節約／農事改良研究部／本年度試作成績
- p.16 第三回道南陸上競技大会
- p.17 日本聖公会平取教会／芥川兄並に平村君を迎ふ  
編輯後記
- 〔p.18〕 〔奥付ほか〕

■第15号

1934年2月25日 印刷納本

// 2月30(ママ)日発行

発行兼編輯人 勇弘郡鷓川村チン 辺泥和郎  
印刷所 全上 ウタリ乃光り社  
発行所 全上

〔表紙〕 第十五号/ウタリ乃光り/第三年/二月号/ウタリ乃光り社発行

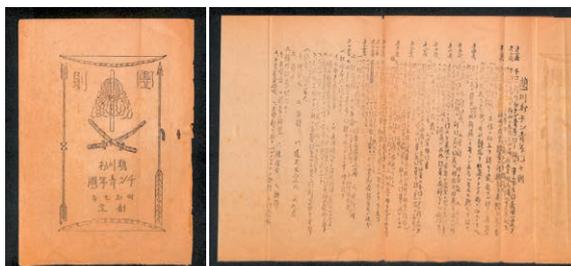


〔表紙裏〕 第十五号 目次

- p.1 更生「ウタリ乃光り」誌御挨拶にかえて
- p.3 “熱血乃同志”森竹君の書に接して 辺泥汀舟生  
〔森竹竹市「全道ウタリーに語る」を掲載〕
- p.9 次号予告
- p.10 恩賜財団済生会巡回診療班を迎ふ
- p.12 雑報  
〔全8ページ。新たに「一」からページ番号を付ける。  
目次には「附録」とあり執筆者は辺泥五郎〕  
主にある愛する兄弟に贈る
- 〔p.13〕 “ウタリ乃光り”同好会員募集
- 〔p.14〕 白紙
- 〔p.15〕 “ウタリ乃光り”同好会員を募る  
〔奥付〕

### 3 『チン青年団団則』

〔表紙〕 団則/鷓川村/チン青年団/昭和七年創立



鷓川村チン青年団々則

- 第一条 本団ハ鷓川村チン青年団ト称シ、事ム所ヲ団長宅ニ置ク
- 第二条 本団ハチン及ビ柏山ニ在住スル満拾五年以上満二十五才以下学籍ニ非ラザル青年ヲ一団員トシテ組織ス
- 第三条 本団ハ教育勅語及ビ戊申詔書ノ御趣旨ヲ奉戴シ左ノ目的達成ヲ期ス
  - 一、身心ヲ鍛鍊シ、品性ノ向上ヲ計リ健全ナル国民善良ナル人民ヲ修養ス
  - 二、経済思想ヲ養成シ、自治觀念ヲ旺盛ナラシメ、郷土向上ノ中心トナルコト
- 第四条 本団ニ左ノ役員ヲ置キ任期満一ヶ年トシ毎年一月五日總會ヲ開キ改選ス
  - 一、団長、二、副団長 三、会計
  - 四、書記 五、区長
- 第五条 団長ハ団ムヲ総理シ、副団長ハ団長ヲ補佐シ、団長事故アル時ハ之ガ代理ヲナス
- 第六条 書記ハ団長ノ命ニヨリ団ムヲ処理シ、会計ハ金錢ニ対スル一切ノ事ム及備品帳ヲ処理ス、区長ハ区内団員ノ取締ヲナシ尚団員ノ入退団事ムヲ掌ルモノトス
- 第七条 本団ニ左ノ団員ヲ推戴ス
  - 一、顧問 二、名誉団員 三、賛助団員
- 第八条 顧問ハ区域内ニ定住スル人格者ヲ、名誉団員ハ本団ノ為メ特ニ尽力シ功績顕著ナル者ヲ、賛助団員ハ正団員ヲ終ヘタル者ヲ毎年ノ總會ニ推薦スルモノトス
- 第九条 突急ヲ要シ又ハ简单ナル事件ハ役員会ニ決シ毎月ノ例会ニ報告シ重大事件ハ顧問名誉団員ノ協賛ヲ経テ全団員ノ決ギニヨルモノトス 毎月ノ例会ハ三日トス
- 第十条 入退団ノ場合ハ区長ヲ経テ団長ニ届出ルモノトス  
但、他部落ニ転住又ハ其ノ他ノ事故ニヨル永久的不在ニ非ラズシテ六ヶ月以上一時的不在ノ時ハ其ノ旨団長ニ申出ルモノトス

第十一条 本団経費ハ団費及ビ団員ノ勤勞ニヨリ得タル  
収入ニヨリ之ニ充ツ

第十二条 正団員ハ毎月団費金十銭ヲ納入スルモノトス

第十三条 □□其他不時ニシテ特ニ費用ヲ要スル時ハ其  
都度役員会ノ決ギニヨリ負担ヲ決スルモノトス

第十四条 本団ニ左ノ簿冊ヲ備フ

- 一、団則及誓約簿 二、団員及役員名簿  
三、会計簿 四、記録簿 五、出席簿及ビ  
事業簿 六、備品台帳

第十五条 本団員ハ相互意思ノ團結ヲ主トシ左ノ事項ヲ  
行フ

- 一、社会奉仕ニ関スルモノ  
イ、村祭事ニ奔走スルコト  
ロ、道路橋梁ノ保全修理ニ尽力スルコト  
ハ、衛生防疫ニ尽力スルコト  
ニ、天災異変ノ時ハ団員協力援助スルコト  
ホ、団員中死亡者アル時ハ全員弔意ヲ表スルコト  
ヘ、入退業者アル時ハ之ヲ送迎シ祝意ヲ表スルコト  
ト、部落保ゴニ関シテハ別ニ自警団ヲ設ケ其ノ団則  
ニ基キ実行スルコト

二、体育ニ関スルモノ

- イ、運動会 ロ、体操 ハ、遠足及登山  
ニ、剣道 ホ、角力  
三、補修教育ニ関スルモノ  
イ、夜学会 ロ、図書ノ回覧 ハ、講演会  
ニ、弁論 ホ、ウタリ歴史ノ研究  
ヘ、文学部ヲ設ケパンフレットノ発行 ト、修養  
会

第十六条 本団員及ビ部落内善行者ハ本団ヲ挙ゲテ表彰  
スルコト

第十七条 理由ナクシテ数次ノ集会ニ欠席シ又ハ団ノ名  
譽ヲ汚ス者ハ之ヲ説諭勧誘シ、尚廢セサル時ハ  
臨時總會ヲ開キ除名処分トスルコト

第十八条 除名サレタル者ニハ絶体ニ其ノ改悛セザル限  
リ永久ニ本団トノ交際ヲ禁ジ、又援助ヲナサズ

第十九条 会計ニ関スル事項  
団費費用ノ残金ハコレヲ郵便預金トシ、通帳ハ  
会計保管シ印鑑ハ当分ノ中団長印ヲ使用ス

第二十条 本団則及諸決ギハ全団員ノ三分ノ二以上ノ出  
席、出席者四分ノ三以上ノ可否ニヨリ改修議決  
ヲナスモノトス

(昭和七年八月廿日改定) 以上

役員及ビ顧問

団長 辺泥和郎  
副団長 尾崎常男  
書記 新井田正雄  
会計 齊藤一  
運動部長 新井田善吉  
弁論  
文学部 辺泥和郎  
第一区長 三上宗二郎  
第二区長 三上茂平  
第三区長 三上義市  
第四区長 新井田善太郎  
顧問 新井田シュサンクル  
〔ペン書きで「猪子先生」とあり〕

三上又吉  
辺泥五郎  
名誉団員 小石川才一  
岡崎照男  
水本由太郎  
三上太郎  
新井田初雄  
稲葉徳一

(団旗調整者)

旗手 八谷忠夫  
会館 当分ノ中珍教会ヲ使用ス

参考文献

- 汐見二区沿革史編集委員会編 1987. 大地は語り継ぐ  
汐見二区沿革史. 鶴川町汐見二区自治会.  
近森聖美 2009. アイヌ文化と私一祖父・辺泥五郎の足  
跡をたどって. 平成20年度 普及啓発セミナー報告  
集. 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構.

## “Utari-no Hikari” Magazine and Chin Youth Association Regulations: Introducing New Acquisitions to Hokkaido Museum’s Collection in 2018

OGAWA Masahito

---

As an example of objects registered into the Hokkaido Museum's collection during the 2018 business year, this paper introduces and reports in summary on “Utari-no Hikari”, an organ magazine published by the Chin Youth Association in the 1930s.

Chin was one of the settlements in the village of Mukawa, which is located in the Iburi region of

southern Hokkaido, and is now part of the Shiomi area of the township of Mukawa. The Chin Youth Association was established in August 1933. At that time, most of the residents of Chin were Ainu.

This paper lists the tables of contents of all of the editions of the organ magazine “Utari-no Hikari” which are in the museum collection. It also lists the full text of the youth association's regulations.